

インターンシッププログラム 実習事例

～ 2024年度 運用技術部門 高専本科生インタビューから ～



1 インターン応募のきっかけ

学校の研修旅行でR-CCS「富岳」見学に来訪。
運用技術部門長から、理研・「富岳」について説明を
聞き「富岳」を運用するシステムに興味があった。
インターンシップに応募。

応募 → 選定 → 通知 → 実習生手続き

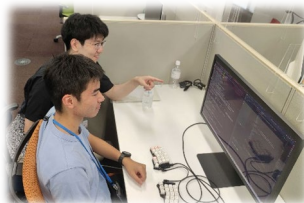
→ 来所 → オリエンテーションを経て配属先へ

→ 実習開始 → 実習生による報告会 → フィードバック

インターンの流れ

実習の内容

- ・ 富岳の運用状況・電力の削減効果について実習。
- ・ プログラムからデータを求め評価する業務を実施。
まずデータをきちんと得ること。大きなデータベースからデータを引っ張って評価するには、確実に正しいデータを取り出してブラッシュアップすることを繰り返す必要があるのがわかった。
- ・ 研修期間が限られているので、煮詰まった場合は相談するようにと指導された。



実習で難しかったこと

- ・ 観点の設定の仕方。これまで何かを作る/動かすという分野をやったことはあったが、データベースから引き出して評価（解析）が難しかった。
- ・ 想像していたより難しい課題もあり、翌日に持ち越したことがあったが、達成感があった。



5 獲得スキル

- ・ SQL文

6 今後のキャリアへのヒント

- ・ 研究を支えるシステムを運用する現場を知ることができた。
- ・ 情報分野に進む予定だが、システムを管理する仕事・既存システムを改良していく仕事・一からサービスを組み立てる仕事などがあることを知り、より具体的なイメージを持つことができた。

交流の場

実習中に「富岳」・施設見学や懇親会など、他の実習生や、センター研究者らとの交流機会があります。



3 実習で得たこと

- ・ 実際の業務に近い課題をすることができた。
仕事の進め方・課題への取り組み方が分かった
- ・ アウトプットを期日までにを行うこと。
そのためのコミュニケーションをとることができるようになった。
- ・ 困ったときの質問の仕方（自分で考えた後に質問する。考えて動き、助けを求める）ができるようになった。

「富岳」を
支えるヒト
がいる



理研R-CCS
運用技術部門は
若手人材の
育成・登用に
本気です

